

2006/07 ケニア 水道事業体の実績例

業務指標	水道事業体名					
	大規模		中規模		小規模	
	Nairobi	Othaya	Maru	Tavevo	Nyahururu	Narak
1 給水時間	15	24	24	8	22	7
2 水道普及率	35.28	55.34	70.88	50	49.8	20.82
3 無収水率	39.59	84.91	27.61	56.15	37.84	75.21
4 水質 残留塩素試験の実施率	No data	83.33	74.43	68.95	100	75
5 水質 残留塩素試験の基準値適合率	99.67	98.58	98.18	95.5	92.38	100
6 利金請求権に対する徴収率	84.93	81.58	117.89	105.41	97.72	107.28
7 営業収支比率	150.8	106	113.25	101.31	116.82	47.65
8 1000接続あたりの職員数	9.76	6.91	14.88	16.35	21.64	35.76
9 下水道普及率	22.91	74.2	No data	95	83.31	77.67
10 メーター設置率	99.58	9.15	94.53	100	97.00	99.81
総合点	121	108	146	100	132	82
全55事業体中のランキング	7	11	3	16	6	33

(水道事業体名リスト)
 Nairobi Nairobi City Water & Sewerage Company
 Othaya Othaya Mbari Water & Sanitation Company
 Maru Maru Water & Sanitation Company
 Tavevo Tavevo Water & Sewerage Company
 Nyahururu Nyahururu Water & Sanitation Company
 Narak Narak Water & Sewerage Company

31

12. 水道セクター把握用の基本ツール①使用事例

32

メトリック・ベンチマークリングによる評価得点 IBNET等のデータに基づくケニアの事例

大 カテゴリー	中 カテゴリー	小 カテゴリー	評価 項目	実績得点者(※会社)	得点計算							
					IBNET等の 実績得点入力		成果基準		各指標の得点(A)		分割平均得点(B)	
KIWA	MWSC	MEWO	MEWO	KIWA	KIWA	MWSC	KIWA	MWSC	KIWA	MWSC	MWSC	
年に実施する プログラムに 従事する できる項目	企画	組織構造の 実現化と実行	1st	給水時間(時間/日)	22	20	8	= 84時間	最大得点 80	80	10	8
	組織構造	水質の充実化	1st	水道普及率(%)	87	88	88	= 260 %	≤ 300 %	48	16	8
年にキャッシュ マネジメント プログラムに より実現 できる項目	財務的 管理	組織構造の 実現化と実行	1st	廃泥水処理(%)	28	58	32	= 530 %	≤ 700 %	88	23	78
	財務的 管理	水質管理	1st	飲料水地盤における検査 結果の定期的公表(%)	87	88	47	= 240 %	≤ 450 %	100	100	14
年にプログラ ム・アーバン 化により実現 できる項目	評議會 運営	財務的 管理	1st	糞便の定期的 公表(%)	92	100	62	= 68 %	≤ 60 %	100	100	71
	評議會 運営	財務的 管理	1st	貯水池充実化と運転、 統計的管理運用に対する 定期的公表(%)	100	541	280	= 130 %	≤ 60 %	100	100	80
年にプログラ ム・アーバン 化により実現 できる項目	上水道と下 水道の バランス	財務的 管理	1st	下水道の普及率(%)	8	8	12	= 55 %	≤ 25 %	100	83	100

※ イタリック体の数字は、WASREBのレポートによる。

33

メトリック・ベンチマークリングによる評価

ケニア 水道サービス規制機関(WASREB)における業務指標と得点基準等を参考に、IBNETのデータを入力して活用できる、メトリック・ベンチマークリングによる評価方法を構築した。

■考慮した視点

「メーター設置率」については、稼働していないメーターを含むケースが多いこと、及び「無収水率」、「営業収支比率」に比べ優先度が低いことにより、本方法論における得点計算では使用していない。

*WASREBでは、人口や事業体規模別の場合分けを、中小規模に対する評価の公平さを確保するために行っているが、客観的に使用する本方法論では省略した。

*得点の重み付けに関しては、国ごとに異なるため、本方法論では省略し、単純平均とした。

*成績基準(最大、最小)は、ケニアWASREBの値を参考に、途上国での使用に適した値を設定した。

34

メトリック・ベンチマークリングによる評価の結果

- 分野別平均得点では、MWSCの設備投資で大きく劣る。
 - 水道の普及状況では、KIWAとMWSCが大きく劣る。
 - 無収水対策では、KIWAが大きく劣る。
 - 水質管理では、MWSCが大きく劣る。
 - 下水道の普及率は、いずれも低い状況である。
- ↓
- IBNETのデータを、現地調査の前に入力し、事前に調査準備が可能となる。
 - 対象国内水道事業体の状況を認識し、援助の対象とする水道事業体の選択が可能となる。

35

13. 水道事業体概要把握用の基本ツール④使用事例

36

3カ国の4水道事業体の比較

3カ国の4水道事業体を 水道事業体用基本チェックリストにより比較してみる



37

マニラ(フィリピン)

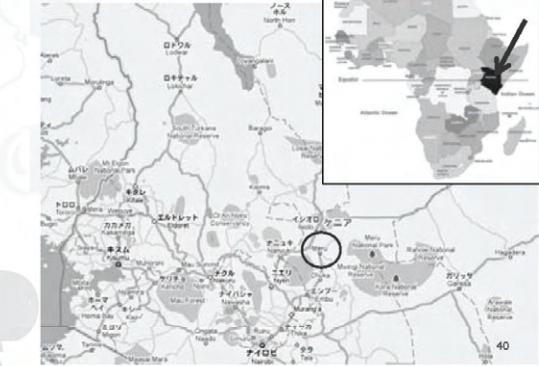


パンペン/コンポンチャム(カンボジア)



1

メルー(ケニア)



1

4都市水道事業体の比較

マニラ(東部) 人口 約560万人
水道普及率 約82%

大都市

人口 約132万人
水道普及率 約95%

地主初志

● コンポンチャム
○ 人口 約6万4千人
水道普及率 約52%

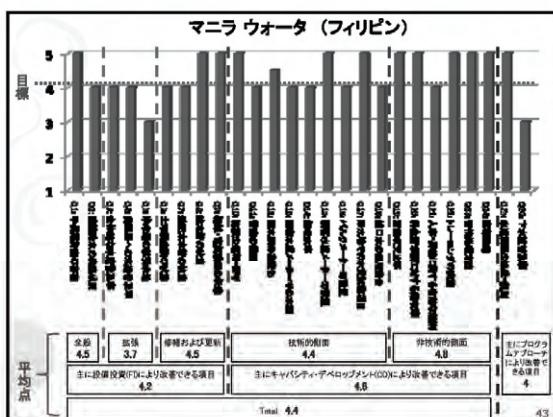
人口 約18万人
水道普及率 約73%

41

實驗項目

Category		Question		
主に 設備投資(F1) により改善 できる項目	全般			
	修理	水道普及率		
		浄水場		
	修繕および更新	施設の状態		
		全般		
	技術的側面	配水ネットワーク管理		
		無収水削減		
	非技術的側面	水質管理		
		財務状況		
主に キャパシティ- デベロップメント (OD)により 改善できる項目		組織開発		
主にプログラムアプローチにより改善できる項目		住民対応		

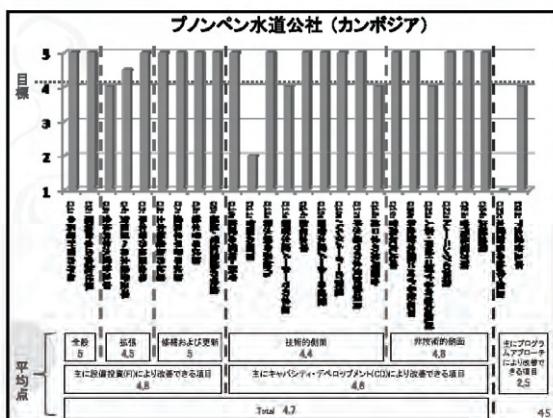
42



マニラ ウォータ (フィリピン)の特徴

- 全般的に高いレベルにある。
- 非技術系のカテゴリーについて、得点が高い。
- 施設面(特に、拡張のカテゴリー)はやや弱い。

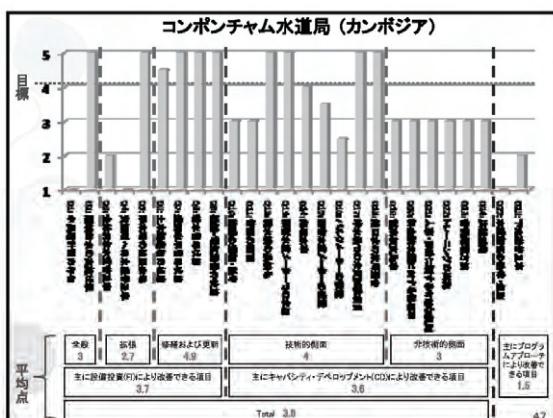
44



ブノンペン水道公社 (カンボジア)の特徴

- 全般的に高いレベルにある。
- 非技術系のカテゴリーについて、得点が高い。
- GIS整備が行われていない。
- 法制度面での整備が遅れている。

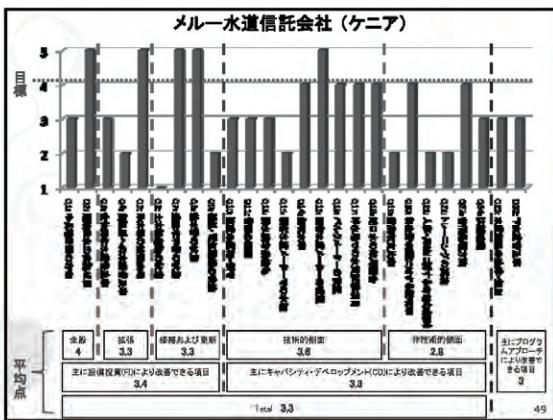
46



コンポンチャム水道局 (カンボジア)の特徴

- 既存施設の状態は良く、修繕および更新の必要性は低い。
- 非技術系のカテゴリーが全般的に低い。
- 中長期計画、貧困対策の面では大きく劣っている。
- 法制度面での整備が遅れている。

48



メルー水道信託会社(ケニア)の特徴

- 非技術系のカテゴリーが全般的に低い。
- 土木構造物の状態が大きく劣っている。
- 機・電設備の状態があまり良くない。
- 配水圧のコントロールにも問題がある。

50

14. 今後の課題

51

今回の調査の中で感じた事

- IBNET 指標データの精度改善と蓄積
- 試用後に方法論の全体及び各ツールの内容を改善
- アセスメントの対象範囲の拡大
 - 地方都市水道事業体の周辺部の取り扱い
 - 下水道、衛生施設
 - コミュニティの能力
- 他ドナーの経験の活用と連携
 - 都市貧困層対策
 - 水道セクター及び特定の水道事業体の組織・制度改革
- 途上国が主体的に行うCAのための支援
 - 水道規制機関等による国内水道事業体のベンチマー킹
 - 水道事業体用基本チェックリストの使用



52

第2部のご清聴ありがとうございました。



53

海外支援へ成果公開

JICA キャパシティ・アセスメントでセミナー



公開セミナーに約140人がつめかけた



中川部長



藤原理事長

JICAは18日、東京・市谷本村町のJICA研究所以公開セミナー「開発途上国の水道分野における課題対処能力の分析・効果的な支援ニーズの把握と成果のモニタリングに向けたキャパシティ・アセスメント」を開いた。JICAでは、持続的な開発を促進するため、援助対象国の課題対処能力を包括的に捉え、「キャパシティ・アセスメント」を支援することで、基本概念の一つに掲げている。その方法論の検討を、日本コン、水道技術研究センターに委託、その成果発表が行われた。関係者約140人が出席した。冒頭、JICAの中川聞夫地球環境部長が挨拶。「キャパシティ・アセスメント」は、開発途上国におけるパフォーマンスがどの程度向上し、その能力の現状診断、開発途上国との相互通理解に基づくキャパシティ・アセスメントの戦略づくり、キヤパシティ・アセスメントが有効と解説した。

日本コン、水道技術研究センターでは、「上水道事業体のキャパシティ・アセスメントとベンチマーク」について、昨年12月から基礎情報収集や、フィービンやカンボジア、ケニアの現地調査を実施している。6月末を目標にとりまとめる予定。JICAでは、参考資料として試行的に運用していくとしている。

外事業部の森正蔵氏、水道技術研究センターの武内辰夫常務理事が発表した。キャパシティ・アセスメントでは、事業体の選択や規制への取り組みと調査の概要を説明。過去の援助の反省から、包括性や内発性を高めて、途上国自身が課題対処能力を向上していくことに支援の重点を置き、その能力の現状診断、開発途上国との相互通理解に基づくキャパシティ・アセスメントの戦略づくり、キヤパシティ・アセスメントが有効と解説した。

日本コン、水道技術研究センターでは、「上水道事業体のキャパシティ・アセスメントとベンチマーク」について、昨年12月から基礎情報収集や、フィービンやカンボジア、ケニアの現地調査を実施している。6月末を目標にとりまとめる予定。JICAでは、参考資料として試行的に運用していくとしている。

JICAは18日、東京・市谷本村町のJICA研究所以公開セミナー「開発途上国の水道分野における課題対処能力の分析・効果的な支援ニーズの把握と成果のモニタリングに向けたキャパシティ・アセスメント」を開いた。JICAでは、持続的な開発を促進するため、援助対象国の課題対処能力を包括的に捉え、「キャパシティ・アセスメント」を支援することで、基本概念の一つに掲げている。その方法論の検討を、日本コン、水道技術研究センターに委託、その成果発表が行われた。関係者約140人が出席した。冒頭、JICAの中川聞夫地球環境部長が挨拶。「キャパシティ・アセスメント」は、開発途上国におけるパフォーマンスがどの程度向上し、その能力の現状診断、開発途上国との相互通理解に基づくキャパシティ・アセスメントの戦略づくり、キヤパシティ・アセスメントが有効と解説した。

日本コン、水道技術研究センターでは、「上水道事業体のキャパシティ・アセスメントとベンチマーク」について、昨年12月から基礎情報収集や、フィービンやカンボジア、ケニアの現地調査を実施している。6月末を目標にとりまとめる予定。JICAでは、参考資料として試行的に運用していくとしている。

日本コン、水道技術研究センターでは、「上水道事業体のキャパシティ・アセスメントとベンチマーク」について、昨年12月から基礎情報収集や、フィービンやカンボジア、ケニアの現地調査を実施している。6月末を目標にとりまとめる予定。JICAでは、参考資料として試行的に運用していくとしている。

日本コン、水道技術研究センターでは、「上水道事業体のキャパシティ・アセスメントとベンチマーク」について、昨年12月から基礎情報収集や、フィービンやカンボジア、ケニアの現地調査を実施している。6月末を目標にとりまとめる予定。JICAでは、参考資料として試行的に運用していくとしている。

日本コン、水道技術研究センターでは、「上水道事業体のキャパシティ・アセスメントとベンチマーク」について、昨年12月から基礎情報収集や、フィービンやカンボジア、ケニアの現地調査を実施している。6月末を目標にとりまとめる予定。JICAでは、参考資料として試行的に運用していくとしている。

日本コン、水道技術研究センターでは、「上水道事業体のキャパシティ・アセスメントとベンチマーク」について、昨年12月から基礎情報収集や、フィービンやカンボジア、ケニアの現地調査を実施している。6月末を目標にとりまとめる予定。JICAでは、参考資料として試行的に運用していくとしている。

JICAからは、同部水資源第一課の松本重行氏が、「JICAにおけるキャパシティ・アセスメントへの取り組みと調査の概要」を説明。過去の援助の反省から、包括性や内発性を高めて、途上国自身が課題対処能力を向上していくことに支援の重点を置き、その能力の現状診断、開発途上国との相互通理解に基づくキャパシティ・アセスメントの戦略づくり、キヤパシティ・アセスメントが有効と解説した。

日本コン、水道技術研究センターの藤原正弘理事長は、政府の新成長戦略づくりやチーム機関等の政策・制度支援が必要を見極める水道セクター全体の把握、対象事業体ごとの適切なプロジェクトが実現するため、ODAへの理解を得るためにも、いかに効率的なインプットで成果を出すのかを示していくことも重要と指摘。水ビジネスの国際展開が高まりを見せる中、産業界・研究者・事業体による活用を想定、ハンドブックにまとめ、公開していくと述べた。

日本コン、水道技術研究センターでは、「上水道事業体のキャパシティ・アセスメントとベンチマーク」について、昨年12月から基礎情報収集や、フィービンやカンボジア、ケニアの現地調査を実施している。6月末を目標にとりまとめる予定。JICAでは、参考資料として試行的に運用していくとしている。

日本コン、水道技術研究センターでは、「上水道事業体のキャパシティ・アセスメントとベンチマーク」について、昨年12月から基礎情報収集や、フィービンやカンボジア、ケニアの現地調査を実施している。6月末を目標にとりまとめる予定。JICAでは、参考資料として試行的に運用していくとしている。

水道支援ツールを開発

JICA公開セミナー

途上国の対処能力を分析



藤原理事長

JICA（国際協力機構）は5月18日、公開セミナー「途上国の水道分野における課題対処能力の分析」を都内のJICA研究所で行った。JICAは開発途上国の水道を支援するための実

用的なツールの開発を行っている。ツールの開発には開発途上国の水道事業体のみならず、水道事業体を統括する水道セクターを分析する必要がある。さらに、複数のプロジェクトの投入を組み合わせた開発シナリオを検討していくための分析ツールも必要となつてお

り、今年に入つてマニラ（フィリピン）、ブンバンボン・コンポンチャム（カンボジア）、メル・ニア）を調査。調査は日本水道技術研究センターが受託した。調査結果はハンドブックとしてまとめられる予定。

セミナーでは水道技術研究センターの藤原正弘・理事長が「ハンドブックは民間企業が海外展開する時にも役立つもの。期待してほしい」と挨拶。調査を行った同センターの武内辰夫・常務理事と正蔵氏が3カ国の水道事業の課題対処能力を日本とのドコト比較して説明。また、ハンドブックの構成についても明かし参加者は興味深そうに聞いていた。

水道産業新聞 6月3日付

4.7 第6回検討委員会の議事録

部長	次長（計画・調整）	次長（水資源・防災）	水資源第二課長

平成 22 年 月 日
地球環境部水資源・防災グループ
水資源第一課
担当 : 印

《会議報告》

案 件 :	上水道事業体のキャパシティ・アセスメントとベンチマーキング（基礎情報収集・確認調査）		
議 題 :	第6回検討会		
日 時 :	平成 22 年 5 月 28 日（金） 16:00~19:10		
場 所 :	JICA 本部 6 階 会議室 5		
参加者	<p><JICA></p> <p>JICA 地球環境部 次長 坂田 章吉 企画部 開発課題課 伊藤 圭介 JICA 地球環境部 水資源第一課 企画役 松本 重行 JICA 地球環境部 水資源第一課 緒方 隆二</p> <p><調査団></p> <p>財団法人水道技術研究センター (JWRC) 武内 辰夫 (総括/組織・制度/CA) 同 上 川崎 敬生 (国内支援) 同 上 竹村 稔 (国内支援) 同 上 松本 浩明 (国内支援) 株式会社日水コン海外事業部 (NSC) 森 正蔵 (財務/経営 2) 同 上 高橋 直人 (上水道維持管理) 同 上 前田 千夏 (国内支援)</p>		
要フォロー事項			
討議内容 (敬称略)	<p>1. 導入</p> <p>【JICA: 松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本日は、報告書のドラフト・ファイナル版について、特記仕様書に記載された検討事項との突き合わせを行いたい。 特記仕様書の検討事項は、そもそも調査前のものであるので、きれいな答えが出なかったり、設問自体がおかしい事もありえる。ただ、問題意識としては存在するので、何らかの形で触れるようにしたい。 <p>2. 討議内容</p> <p><u>1) 各検討項目について</u></p> <p>【JICA: 松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> 検討項目「PI を技プロや技術協力のモニタリングや成果の指標として使用することの可能性や課題の検討」についてだが、PDM・PCM のところで記述してもらったということでおいか。 <p>【調査団: 森】</p> <ul style="list-style-type: none"> はい。問題点や注意すべき点については、指標にそれぞれの説明に記載している。 		

	<p>【JICA: 松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 検討項目「技術協力だけではなく、資金協力への使用について。特に、資金援助に付随する技術支援のコンポーネントをどう考えるか」についてだが、技術支援のコンポーネントと技術協力は同じなので、記載してあるとして良いと思う。アブレイザルに関して、実施する際に必要な人数や技術については個別具体的な話なので、報告書には記載しない、という整理で良いか？ <p>【調査団: 森】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ はい。 <p>【JICA: 松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どのあたりで技術支援が必要か、という判定はこのツールができるが、投入量の判定は難しいのか？ <p>【調査団: 森】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既存施設の維持管理にどういう問題があるか、という判断はできるが、新しい技術を導入した時にどれくらいのトレーニングが必要か、という判断はそれを担当するコンサルが判断すべき。 <p>【JICA: 松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 検討項目「技術面だけではなく、財務やガバナンス・法制度なども評価したい」について。 ・ 例えば無収水について、〇%なら望ましいというような相場感は JICA の地球環境部の職員は持っている。しかし、財務指標となると、高い方が良いのか低い方が良いのか、判断がつかないことが多い。 <p>【調査団: 森】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 料金回収率や営業収支比率などの 1st プライオリティについては、本文で詳しく説明している。 ・ 難しい財務指標は 3rd プライオリティにしているので、コンサルが使用することを想定している。 ・ 添付資料においては、すべての財務指標について日本語で解説を行っている。 <p>【JICA: 坂田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紿水原価などの相場感をより理解できるようにできないか？ <p>【調査団: 武内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 物凄い幅があり、一概には言えないと思う。 <p>【調査団: 森】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水道の経験が少ない人がその相場感を持つのは難しい。やはり IBNET などからデータを入手して近隣事業体などとメトリックベンチマーキングで比較するのが良いと思う。 <p>【JICA: 坂田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ その方法だと、実際に適用してみないことには分からないことになる。ハンドブックとしてはやはり具体例を挙げて、かつ単純にその具体例を元に評価しないよう注釈をつければ良いと思う。 <p>【調査団: 森】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ADB や IBNET のデータなどを参考して相場感をより詳しく説明するようにする。 ・ 数年前に ADB で実施された調査があるので、その中からいくつかの指標についての
--	---

	<p>結果をピックアップして掲載することとしたい。</p> <p>【JICA: 松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 財務指標の説明について、もう少し噛み碎いたものを想定していた。 ・ 教科書的な説明ではなく、もう一步進んだ説明が欲しい。 <p>【調査団: 森】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 添付資料における財務指標の説明をより分かり易くする。 <p>【JICA: 松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 検討項目「円借款関係」で、ツーステップローンを行う場合、通常は財務面を見てどの事業体なら貸せるかを判断するが、財務面だけでなく水道サービスの改善につなげられるキャパシティを見たい、という要望がある。どういう方法・指標なら判断できるか？ <p>【調査団: 前田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3.2 の方法論の事業スキーム毎の活用に記述があるが、ツーステップローンの内容にもよる。ローン実施中・実施後の成果の測定をすることはできる。 <p>【JICA: 松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ その事業体に貸して本当に大丈夫なのか、あるいは、援助の吸収力といったものは、水道事業体そのもののマネジメント能力がどうなのかという問題である。そうすると全体的な話なので、ツール全部ということになる。その中で、こういう指標だと分かりやすい、というのを挙げられないか？ <p>【JICA: 坂田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ツーステップローンの審査の場合、個別にどこを直すのかなどは見ないのか？ <p>【JICA: 松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アプレイザルの時は見ない。その後いろいろな事業体からプロポーザルが出てきた時に、サブプロジェクトの審査を先方実施機関が行う。その場合のサブプロジェクト審査のルールに関する検討・協議が JICA 職員にとってはアプレイザル時の大きな仕事である。 <p>【調査団: 森】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サブプロジェクトの審査としては、例えば、監督機関から 1st プライオリティのベンチマークを出してもらい、水道事業体からは基本チェックリスト④を提出してもらおうようにすれば良いと思う。その結果を見た上でプロポーザルを作成して提出してもらえばいい。 <p>【JICA: 松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ツーステップローンのアプレイザルにおける留意事項やキャパシティ・アセスメントの適用については、円借款の審査マニュアルの改訂を予定しているので、その時に検討したい。本報告書には、財務面だけではなく組織の全体的な運営能力もチェックする、という注意喚起的な記述を盛り込んでほしい。 <p>【JICA: 松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 検討項目「キャパシティ・アセスメントの結果を踏まえ、どういう順序で投入していけばよいか」についてだが、これは基本チェックリスト④の棒グラフなどを活用して分析していくということで良いか？ <p>【調査団: 森】</p>
--	---

<ul style="list-style-type: none"> ・ はい、棒グラフから判断できると考えます。 <p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 検討項目「協力プログラムで中長期的にデザインしていく場合にどう考えるか」について。プロジェクトだけではなくプログラムのケースについてはP3-3などに書いてある。必要があればJICAで書き足したいと思う。 ・ ローリングプランについても、基本チェックリスト④の棒グラフを作成し、数値が悪いカテゴリーへの対応を考えれば良いか？ <p>【調査団:森】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ セクター全体に対しては、基本ツール①と②で対応できる。特定の水道事業体に対しては、基本ツールの③と④を用いることができる。 <p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定の水道事業体を対象にするつもりでキャパシティ・アセスメントを始めたところ、実はセクターの方の問題が大きいということが判明することもあり得るだろう。すなわち、チェックリスト④から入ってセクターの能力を見る 것도できると思うし、環境スキャンから入ってセクターを見ることもできる。シークエンスはどうなっているのか？ <p>【調査団:森】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3.6のアセスメントの流れの図で説明している。 ・ 水道事業体の詳細把握のために行う環境スキャンについて、外部要因にあまりにも問題点が多い場合は、セクター側の調査も行うべきである、という注釈を入れておきたい。 <p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 検討項目「チェック項目リストの拡充」について、このリストの具体的な内容や相場感を知りたい、ということが問題意識としてある。 <p>【調査団:武内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部分的にはチェックリスト④で示している。 <p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チェックリスト④には定性的な指標も入っているので、対応済みと思われる。 <p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 検討項目「他ドナーの取り組み」で、twinningやWOPs、ベンチマーキングについて、どのような定義でどういう関係になっているかということを整理してほしい、という内容だが。 <p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ twinningについて、それぞれの事業体のキャパシティから判断して組み合わせを決定している、というイメージがあった。実際には相性や提供できる技術から判断しているようだが… <p>【調査団:森】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 添付資料2.2以降に記述している。一応、判断用の指標リストは用意されている。あまり重要視はされていない。 ・ 判断用の指標リストを資料として掲載したい。 <p>【調査団:武内】</p>
--

	<ul style="list-style-type: none"> ISO の関係について、石井顧問からの指摘事項について P5-7 で解説している。ツールのカテゴリーが ISO の基準と適合していることを示している。 <p>【調査団:森】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2 章でも、ISO を主な参考文献として挙げている。 <p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> 検討項目「協力対象都市の選定」についてだが、これは各都市のデータでメトリックベンチマークリングを行えばわかると思う。 <p>【調査団:森】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際に訪問できるのであれば、基本ツール④の基本チェックリストを試してみれば比較しやすい。 <p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> その辺りの記述はあるか？ <p>【調査団:前田】</p> <ul style="list-style-type: none"> 4.1.6 に記述している。 <p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> そもそもの入口として、チェックリストの結果から対象都市を選ぶにはどうしたらよいか？ <p>【調査団:前田】</p> <ul style="list-style-type: none"> P4-16 に結果の考察を示している。 <p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> 途上国ならではのデータ入手の難しさや精度の問題については？ <p>【調査団:森】</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの指標の中で注釈を入れている。 <p>2) 報告書についてのまとめ作業について</p> <p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> 報告書については、これでだいたいOK したい。 <p>【調査団:森】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日までのコメント反映させたワードファイルを JICA 側の最終チェックのため、いつまでに提出すればよいか？ <p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月4日までに提出してほしい。 エクセルファイルについては、報告書を読みながらノートの部分を読み込みたい。 6月7日までに JICA 側の最終コメントをまとめて送信する。 これまで検討会を重ねてきてるので、今から大きなコメントを出すことはなく、細かい修正がメインになるが、できるだけ具体的な指摘をしたり、Word のファイルに修正して履歴を残すなどの形で作業を進めたい。 <p>3) 英文プレゼン資料について</p>
--	---

	<p>【調査団:武内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英文プレゼン資料について、意見をもらいたい。(英文プレゼン資料の説明) <p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査の概要よりも、JICA が水道セクターや水道事業体を見る時にこういうメソドロジーで見ている、という内容にしたい。P4 が重要で、P6 の先行事例に新たな味付けを加えて JICA として取り組みを始めている、というのがアピールポイント。タイトルも「水道セクター・水道事業体へのキャパシティ・アセスメントのアプローチ(またはメソドロジー)」となる。ハンドブックは日本語のため、海外で配布することもできないので、ハンドブックを紹介する内容にする必要はない。むしろ、今までにはない包括的な方法論になっていたり、定量的な指標のみを追いかけるのではなく定性的な内容も含めて追うことができる、というような日本の独自性をアピールできるものにしたい。そこに力点を置きたい。 ・ JICA 用語はあまり触れないでよく、特に翻訳時は注意してほしい。例えば、「プログラム」というのは JICA 用語であり、世界的にはプログラムローンや財政支援を意味している。 ・ P4 のキャパシティ+パフォーマンス+インパクトの思想や、定量的+定性的の思想、貧困層対策といった部分はアピールになる。貧困層対策については、単に水道の経営が良いかどうかだけを見るのではなく、援助が届くべき部分へ行っているかどうか、というきめ細かなところを JICA はきちんと考慮している、ということを言いたい。逆に、プログラム+プロジェクトや、施設投資+技術協力といった内容は、他のドナーからすれば既に当たり前の内容なので、盛り込む必要はない。 ・ チェックリスト④のグラフは特定の固有名詞は出さず、例として示すくらいのほうが良い。ただ、単なるベンチマー킹ではこういう事は分からなく、この方法論だとこういう分析ができる、という事を言いたい。 <p>【調査団:武内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5段階評価で結果が示されること、定量的+定性的な内容になっていること、相手と対話しながら理解を深めていくところができること等を盛り込めば良いのでは? <p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インタラクティブな方法論で、相手と対話することそのものがキャパシティ・ディベロップメントになる、というコンセプトはアピールになると思う。 ・ ツールの特徴よりも、その結果からこういう分析ができる、ということを書いてほしい。 <p>【調査団:森】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハンドブックで、2つの事業体での結果の考察を戦略的に書いているので、その内容を盛り込めば良いと思う。 <p>【JICA:伊藤】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ prezzenの流れとしては、まず、水道事業体への援助について問題意識があり、次に他ドナーのやり方を紹介し、その後に JICA の CD アセスの方法論を説明し、具体的に実施するところという問題点が炙り出される、という構成としたい。 ・ キャパシティ・アセスメント、キャパシティ・ディベロップメントが必要かどうか、という議論は既に終わっていて、具体的にどう行うかが問題となっている。特定のセクターで実施しようとすると、そこで話が止まってしまう。過去は失敗した事例もあったが、この方法論を使用すると、こういう問題が明らかになる、ということを言いたい。 ・ 2011年11月に韓国で援助効果のパリ宣言の最終的なレビューが行われる。そこへ向けて、それぞれのドナーが CD をどう進めるかのアピール合戦となる。概念的な話になりがちだが、JICA では水道という特定の分野について、具体的にこう考えている
--	--

	<p>といえると思う。その場では非使用したいと考えている。</p> <p>【調査団:武内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公開セミナー時の JICA のパワーポイントの資料から広報用資料に転用したいが。 <p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使える部分もある。キャパシティ・アセスメントの考え方や定義は、もう常識的になっているが… <p>【JICA:伊藤】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アセスメントハンドブックの本編の英訳が完了したので、キャパシティ・アセスメントの基本については、そこから引用できる。 <p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の JICA のアプローチは包括的なものであるとか、キャパシティの中でも定量的に現れにくいコア・キャパシティを測るために、こんなツールを使うことができる、ということを示し、その上で援助をデザインしている、ということを言いたい。 ・ プレゼン(案)の P24 の想定される今後の活用も、JICA やコンサル向けの内容になっている。他ドナー向けに書くのであれば、実際に活用して改良していく、であるとか、セミナー資料の今後の課題にあるような、もう少し概念を拡張していく、あるいは、方法論を広げたり深めていくか、というような内容を盛り込んでほしい。あまり風呂敷を広げすぎるのは良くないが、問題意識としてはそういうことだと思う。報告書の今後の課題に書かれていることはドナー受けする内容なので、そちらの方に向っていってほしい。 ・ プレゼン(案)の P25 の参考資料について、英語版があるものだけ挙げるようにして。上の 3 つは日本語版しかない。 <p>【JICA:伊藤】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ここに掲載されているもの以外で、英訳されている JICA のキャパシティ・ディベロップメントの資料があるので、その一覧をメールで連絡する。色々なセクターで業務をやっている PR という意味でも、そこに文献名を掲載してほしい。 <p>4) 成果品の様式や部数について</p> <p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最終成果品の話だが、当初は報告書の英文 100 部を予定していたが、執務資料として作り込んだため、英訳するメリットは少ない。全文の英訳は止めてしまって、要約版の英訳を作れないか？ <p>【調査団:森】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼン資料にノートを加える形の方が使い勝手が良いのでは？ <p>【調査団:前田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本文を要約しても、利用しにくいと思う。 <p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ノートを切り貼りすれば対応できるので、ノート付きのプレゼン資料としたい。 ・ エクセルファイルのはじめのページ（ツールの全体像や使い方を示したページ）についても英訳が必要。 <p>【調査団:前田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パワーポイントは製本の必要があるのか？
--	--

	<p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単に印刷するだけでよい。検収用のための物である。実際に使うのは電子ファイルの方である。 <p>【調査団:前田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 印刷する部分と DVD に収録する部分について確認したい。 <p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 案では、印刷は本編のみで、それ以外は DVD としている。 <p>【調査団:森】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参考資料について、掲載すると問題がある資料はあるか？ <p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料そのものを収録するのか？ <p>【調査団:森】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の方針論の改善や各国の水道事業体データの参照のため、そのものを PDF で収録しようと考えている。 <p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公開されていないものは問題がある。 <p>【調査団:森】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 非公開分は、参考資料のリストと DVD から削ることにする。 <p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英文 100 部を取りやめた代わりに、DVD を添付することにしたが、見積もりを取って、金額が収まれば打合簿で対応したい。オーバーするようなら、契約変更となる。 <p>【調査団:前田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カラーページが多いので、値段がオーバーするかもしれない。囲み記事の背景をグレーにしたり、枠線の種類を変更するなどの対応をしてよいか？ <p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ よい。 ・ 表紙の色については、指定があるかどうかを確認する。 <p>【調査団:前田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表紙の体裁や番号についても確認したい。 <p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表紙の体裁も指定があるので、それに倣ってほしい。 ・ 外部に公開するものは（案）では難しい。（案）を取ってハンドブックとして出したい。
--	---

	<p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで検討会を重ねて来ているので、大きな変更を求めるようなコメントをする可能性は高くない。今の版で JICA 職員からの最終のコメント募集をする。 来週半ばまでに今日の内容を反映したデータを送ってほしい。 公開セミナーでのコメントへの対応は？ <p>【調査団:森】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平均値についての考え方を記入した。歴史については、詳細チェックリストの中に設問を入れた。 セミナーの議事録については、参考資料に掲載したい。 <p>【JICA:松本】</p> <ul style="list-style-type: none"> 掲載するのであれば、内容を確認してほしい。 <p>以上</p>
配付資料	1) 英文プレゼン用和文原稿案 2010-5-28